

2019年5月23日

(報道発表資料)

東日本電信電話株式会社 埼玉支店  
デジタルアーツ株式会社

## 心の中で悩みを抱えている全国の児童・生徒たちの命の危険を ICTを活用して回避する仕組みの提供について

東日本電信電話株式会社 埼玉支店(支店長:榊原 明、以下「NTT東日本」)は、さいたま市教育委員会さまにおいて提供されていたデジタルアーツ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:道具 登志夫、以下「デジタルアーツ」)のWebセキュリティ「i-FILTER(アイフィルター)」について、児童生徒の自殺関連サイトアクセスに対して即時対応可能な機能の具備を支援してまいりました。

このたび、デジタルアーツが当該機能を「i-FILTER」のオプション製品として今夏より提供開始することにより、全国の学校関係者もご利用いただけるようになります。

### 1. 社会背景とNTT東日本の取り組み

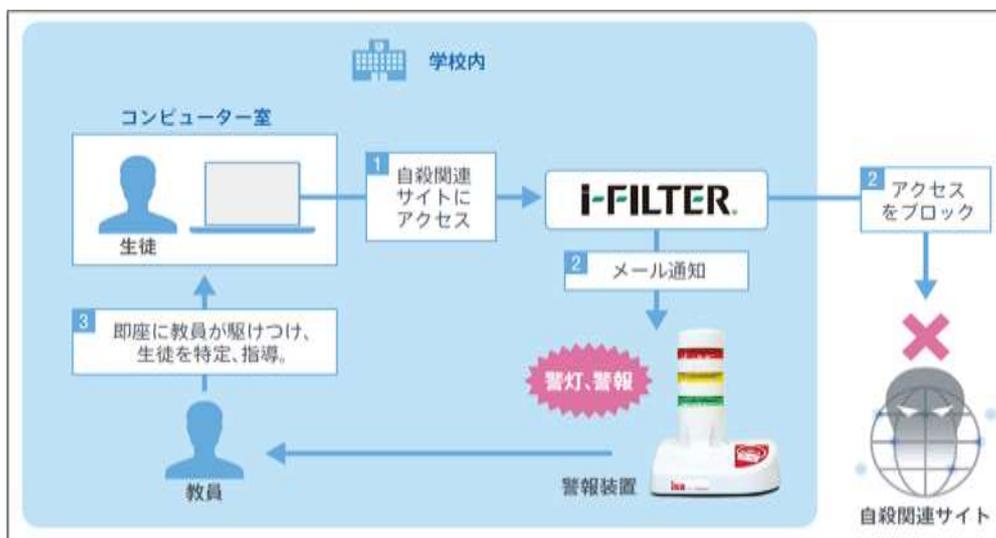
警察庁の発表<sup>\*1</sup>によると、全国の自殺者数は2010年以降9年連続で減少しているものの、一方で未成年者の自殺者数は2016年以降増加しています。未成年者の自殺の原因・動機は「学校問題」が最多で、30%以上にのぼります。

このように学校問題を起因とした未成年者の自殺が深刻な社会問題となっている状況を踏まえ、NTT東日本は、さいたま市教育委員会さまに対し提供していた「i-FILTER」において、警報装置によるリアルタイム音声通知機能を具備するため、これまで培ったさいたま市教育委員会さまでのネットワーク運用実績に基づくノウハウ提供支援をデジタルアーツに対し実施してまいりました。

警報装置によるリアルタイム音声通知の仕組みとは、児童・生徒が学校内のコンピューター室で自殺関連サイトへアクセスを試みると、教職員宛にメールにて通知が届くとともに警報が大音量で鳴る仕組みとなります。

警報をもとに教職員がコンピューター室へ急行することで、これまでは気が付くことができなかった自殺関連サイトへのアクセスを試みた悩みを抱える児童・生徒を発見<sup>\*2</sup>することが可能となり児童・生徒の悩みが更に深刻化する前にいち早く心のケアをすることで、子どもたちの命を守るための見守り警報としての効果が期待されます。

さいたま市教育委員会さまにおける運用において一定以上の効果が見込めたため、今夏より当該機能を「i-FILTER」のオプション製品として提供開始することが決定したことから、全国の学校関係者もご利用いただけるようになります。



＜自殺関連サイトアクセス児童生徒をサポートする仕組み＞

## 2. 今後の取り組みについて

家庭や教職員など、人へは伝えることができない児童・生徒の心の声を、システムを通じて収集することを目的として、警報装置によるリアルタイム音声通知をすることに加え、「i-FILTER」のブロック画面からチャットボットを起動し、生徒を即座にフォローする仕組みの検討支援を実施してまいります。



＜「i-FILTER」のブロック画面からチャットボットを起動するイメージ図※3＞

NTT東日本は、心の中で悩みを抱えている全国の児童、生徒たちの命の危険を少しでも回避できるシステムの提供を通じて、安全なインターネット社会実現、及び未来を担う子供たちの健やかなる成長の一助になることを切に願います。

※1 警察庁 2018 年中における自殺の状況

※2 ネットワーク構成によっては生徒が利用している端末の特定ができない場合があります

※3 開発中のため、画面イメージや仕様は予告なく変更される可能性があります